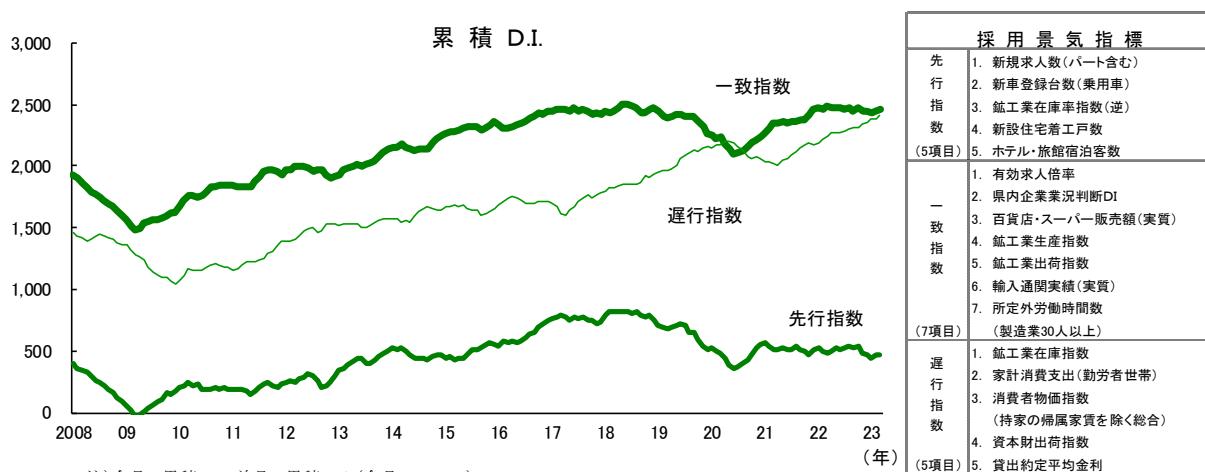


1. 景気動向指数

2023年3月の景気動向一致指数は、有効求人倍率、県内企業業況判断DI、百貨店・スーパー販売額（実質）、鉱工業生産指数、鉱工業出荷指数の5項目がプラスとなり、全体では71.4%と2カ月連続で50.0%を上回った（7項目のうちプラス5）。

先行指数は、新規求人人数（パート含む）、鉱工業在庫率指数（逆）、ホテル・旅館宿泊客数の3項目がマイナスとなり、全体では40.0%と2カ月ぶりに50.0%を下回った（5項目のうちマイナス3）。

遅行指数は、鉱工業在庫指数、家計消費支出（勤労者世帯）、資本財出荷指数、貸出約定平均金利の4項目がプラスとなり、全体では80.0%と2カ月ぶりに50.0%を上回った（5項目のうちプラス4）。



景気動向指数：景気に敏感な経済指標を複数取り上げ、それぞれの値を3カ月前の値と比較して増加したものの割合を出したもの。景気の現状を表す一致指数と、一致指数に数カ月先行して動き、景気の先行きを表す先行指数、数カ月遅れて動く遅行指数の3つがある。一致指数が数カ月連続して50%を上回った場合、景気が上昇局面にあることを示す。

景気動向指数の算出方法

景気動向指数=(プラス項目数+横ばい項目数×0.5)÷(プラス項目数+横ばい項目数+マイナス項目数)×100(%)

2. 鉱工業生産

3月の鉱工業生産指数は、90.7で前年同月比9.3%減と7カ月連続で前年を下回った。

主要業種別にみると、化学（同37.7%減）、電子部品・デバイス（同29.7%減）、繊維（同3.5%減）、食料品（同2.5%減）のいずれも前年を下回った。

3. 建設関連

① 公共工事

5月の公共工事請負金額は、158億32百万円で前年同月比32.4%増と2カ月ぶりに前年を上回った。

発注者別にみると、国が同43.9%増、県が同36.3%減、市町村が同194.3%増、その他（独立行政法人等）が同25.4%減となった。

② 着工建築物

4月の着工建築物は、棟数は380棟で前年同月比0.8%減、床面積は5万3,758m²で同15.5%減となつた。

内訳をみると、居住用は棟数が同0.6%増、床面積が同8.0%減となり、非居住用は棟数が同6.7%減、床面積が同27.2%減となつた。

③ 住宅着工

4月の新設住宅着工戸数は、分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家が前年を下回った。県内合計は389戸で前年比9.5%減と2カ月ぶりに前年を下回った。

4. 個人消費関連

① 百貨店・スーパー販売動向

4月の百貨店・スーパー販売額は、57億6,200万円で前年同月比4.9%増と19カ月連続で前年を上回った。

商品別では、衣料品は9億6,900万円で同9.0%増、飲食料品は31億1,500万円で同5.9%増、その他計は16億7,900万円で同0.9%増となった。

② 乗用車新車販売動向

3月の乗用車新車登録台数は、2,369台で前年同月比12.9%増と3カ月連続で前年を上回った。

車種別にみると、普通車は1,573台で同35.4%増、小型車は796台で同15.0%減となった。

5. 消費者物価指数

4月の宮崎市の消費者物価指数は、104.6で前年同月比3.5%増だった。

6. 企業倒産

5月の企業倒産件数（負債額1,000万円以上）は2件（前年同月1件）で、2カ月ぶりに前年を上回った。負債総額は1億8,000万円（同3億6,400万円）で2カ月ぶりに前年を下回った。

7. 雇用情勢

4月の有効求人倍率は、前月より0.01ポイント低下し1.45倍となった。

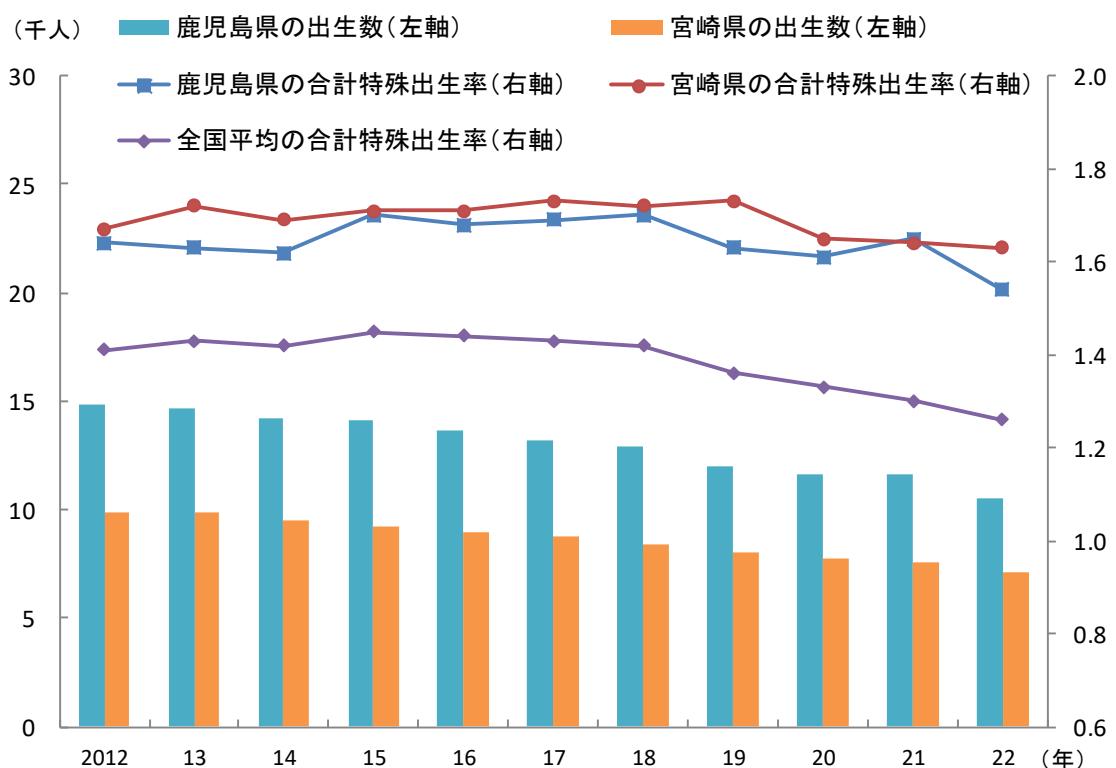
新規求人件数は1万654人で前年同月比2.4%増となった。

雇用保険受給者数は、3,922人で同0.8%増と3カ月ぶりに前年同月を上回った。

〈今月のトピックス〉～合計特殊出生率と出生数

厚生労働省によると、2022年の宮崎県の合計特殊出生率は1.63で前年を0.01ポイント下回った。ただ全国平均を0.37ポイント上回り、沖縄県（1.70）に次いで全国で2番目に高かった。また、出生数は7,136人で前年比454人減少した。なお全国の出生数は77万747人で、前年比4万875人減少し、1899年の統計開始以来、初の80万人割れとなった。

合計特殊出生率と出生数



資料)厚生労働省「人口動態調査」(22年は概数)